



町長の行政報告を お知らせします

八峰町3月議会定例会が6日から20日までの会期で開かれ、町長の行政報告や一般質問、補正予算の議案審議などが行われました。町長の行政報告の中から主なものをお知らせします。

町営医科診療所 3月から週5日体制に

町営医科診療所は、昨年5月から非常勤医師により、週4日の診療体制で診療を行っていましたが、3月から、つばきさかクリニックの椿坂医師のご協力を得て、水曜日に埴川分院を再開し、週5日体制としております。

本院での診療は、月曜日に三田医師、火曜日に椿坂医師、木曜日に秋田大学の八木医師、金曜日に医師会病院の田中医師が担当することとなっております。

常勤医師の確保については、医師不足の中、非常に厳しい状況下ですが、引き続き情報収集に努め、全力で取り組みます。

八森地区統合子ども園 本体工事が完了

統合子ども園建設工事においては、平成25年4月発注の敷地造成工事をはじめとし、木造園舎新築工事、建築付帯工事、電気設備工事、機械設備工事、地中熱ヒートポンプ設備工事及び太陽光発電設備工事と、平成25年度に予定していた工事については、本年2月末までにすべて完成しました。

26年度においては、外構工事などを行うほか、園内の備品の整備や幼児送迎バスの購入を行い、本年11月の開園を目指しています。



平成25年八峰町観光客入込数 前年を上回る

昨年10月から12月に、JRグループと県内自治体などが連携して実施した大型観光キャンペーン「秋田デスティネーションキャンペーン（以下、DC）」についてですが、県では、一部地域で伸び悩

んだものの、秋田新幹線利用者や県立美術館、男鹿水族館の入館者、横手市「蔵の駅」の入場者の大幅な伸びなどにより、「一定のDC効果が得られた。」とされています。

本町においては、観光関係者から「DC効果があまり感じられなかった。」との意見もありましたが、DCイベントとして開催した「はっほうんめもの祭り」の入場者やハタハタ館、おらほの館の入館者の伸びなどにより、期間中の観光客数は、前年同期と比較して10%増の22万4千人となり、一定の成果は得られたものと判断してまいります。

また、平成25年八峰町観光客入込数ですが、7月、8月の大雨による自然災害の影響で、夏季の観光客数が前年を大きく下回りましたが、秋田DCや白神山地世界遺産登録20周年記念イベントなどを、官民が連携して積極的に実施したことにより、前年より約5千人増の91万8千人となっております。

峰浜培養 経営状況は黒字ベースで推移

菌床シイタケの栽培は、現在、8農家が22棟で栽培しているほか、峰浜培養が10棟で栽培しています。販売実績については、1月末までの規格別販売状況によると、販売単価の高いA品とB品を合わせた秀品率は68%、C品と規格外品は32%の割合になっており、これまでの出荷総数は、約411トンです。

3月議会定例会に 提出した主な議案

- △八峰町特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例制定について
 - △八峰町道路占用料徴収条例の一部を改正する条例制定について
 - △八峰町農業集落排水事業債償還基金条例を廃止する条例制定について
 - △定年前に退職する意思を有する職員の募集等に関する条例制定について
 - △公の施設の指定管理者の指定について
 - △工事請負変更契約の締結について
 - △八峰町沢目財産区管理委員の選任について
 - △平成25年度一般会計補正予算4,819万円3千円を追加主な歳出
 - 財政調整基金積立金、ふるさと八峰応援基金積立金、岩館・八森両漁港関連の県負担金、防災無線の修繕費、診療所特別会計への操出金
 - △平成26年度八峰町一般会計及び各特別会計予算
- ※内訳は2〜3ページ参照

猿害対策 平成25年被害は 面積・金額とも前年より減少

猿害対策については、町やサル被害者の会、猟友会、自治会、農業者団体などで組織する「猿害対策地域協議会」が主体となつて、猿の捕獲や追い上げ、被害防止対策を実施しているところです。

平成25年の被害状況については、被害面積は10・28ヘクタールで、前年より13・95ヘクタールの減少、また被害金額は169万円で、前年より37万円の減少となりました。被害面積、被害金額は平成23年より年々減少しており、防止対策の成果が表れた結果となっております。

猿害防止対策としては、被害防止網や花火の無償提供のほか、一昨年から、農家などが設置する簡易電気柵等の半額助成を行い、成果を得ています。

しかし、より効果的な対策は猿を捕獲

八峰美人で J-VERクレジットをPR

町では、平成23年度からクレジットの企業等への販売に努めてきましたが、今年度は、マイクライメイトジャパン株式会社から133トン、三菱UFJリース株式会社から16トン、町内の秋田グリーンメンテナンクス株式会社から44トン、合計193トンの購入申し込みをいただき、年度末で203万円の販売見込み額となりました。3年間の販売累計は825トン、販売金額は、1,178万3,500円の見込みとなっております。

販売収益については、「八峰町自然再生基金」に積み立て、温室効果ガスの吸収促進と林業活性化につながる取り組みに活用しています。

また今年度、町では環境省の「カーボ



ン・オフセット認証事業」に取り組み、カルビーカルネコ事業部の支援を受け、峰浜培養の菌床シイタケに、町のJ-VERクレジットを組み合わせた商品「八峰美人」を計画しました。

この商品は、「八峰美人」を購入した消費者が、1日で排出すると予測される二酸化炭素5キログラムをオフセットするもので、商品に使用するシイタケも規格外で市場に出ることの無いものに着目し、シイタケの無駄な廃棄も減らす、という環境に配慮した取り組みです。

今後、関東で行われるイベントなどで展示販売を行い、町のJ-VERクレジットのPRと販売に努めます。